

第56回新生ふくしま復興推進本部会議 議事録

■ 日時：平成28年7月27日（水） 11：30～11：45

■ 場所：特別室（本庁舎2階）

【鈴木副知事】

ただいまから新生ふくしま復興推進本部会議を開催します。

議題の1つ目、平成29年度国の予算に向けた取組について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料1-1を御覧ください。平成29年度の国の予算に向けた取組につきましては、6月9日、知事による国への提案・要望を始め、各部局も直接省庁に出向いたり、意見交換の場を通じて、国と折衝を重ねてまいりました。

裏面、資料1-2を御覧ください。これまでの調整状況や市町村からの意見などを踏まえつつ、今後、特に国に対して、予算の確保に向け、訴えなければならない項目についてまとめたものであります。

震災から5年5か月を迎えようとする中、今後の復興の道筋をつける意味で、これからが正念場であります。

左側の<<現状・課題>>を御覧ください。平成28年度に入り、葛尾村、川内村、南相馬市の小高区の避難指示が解除されております。

「福島12市町村将来像の実現」、「イノベーション・コースト構想」、「福島新エネ社会構想」など、本県復興・再生の鍵となるプロジェクトについて、県としても引き続き、スピード感を持って取り組んでいかなければなりません。

一方で、震災から5年が経過し、風評・風化の進行が懸念される中では、復興・創生期間の初年度に当たる今年度、国の復興に関する情報発信の取組を来年度以降もいかに継続・強化していただけるかが重要なポイントであります。

右側の<<特に訴えるべき視点>>を御覧ください。本県の現状・課題を踏まえ、平成29年度の予算に向けましては、「1. 避難地域12市町村の生活環境整備の加速」においては、市町村の意向を踏まえた帰還困難区域のあり方など、「2. イノベーション・コースト構想の確実な実現」については、アーカイブ拠点などの未着手部分の早期具体化、「3. 再エネ等の新産業創出、産業復興に向けた支援」につきましては、福島新エネ社会構想の具体化、「4. 風評・風化対策の確実な支援」につきましては、農林水産物等の安全確保、風評対策の一層の強化、「5. 復興に不可欠なインフラ等の環境整備」につきましては、中間貯蔵施設への対応等が、特に訴えるべき視点となっております。

以上5点に沿った形で、国と最後まで調整を進め、予算の確保にしっかりと取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

今の説明について何かありますか。
知事お願いします。

【知事】

4月から「復興・創生期間」が始まりました。復興・再生を加速していくために大切なポイントになるのは、財源の確保であります。政府は原発事故後、6年となる平成29年春までに帰還困難区域を除く避難指示を解除する方針であります。住民帰還に向けた環境整備を加速していくためにも、平成29年度予算は極めて重要であります。今後、福島復興を円滑に進めていくため、必要な予算をしっかりと確保していかなければなりません。私も福島復興再生協議会の場において、国に対して、福島県の現状・課題を丁寧に訴えて、復興再生に必要な財源確保に取り組んでまいります。皆さんも緊張感を持って、関係省庁との調整など、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

【鈴木副知事】

それでは、報告事項に入ります。

1つ目、風評・風化対策の効果的な実施に向けて、風評・風化対策監。

【風評・風化対策監】

資料2-1を御覧ください。風評・風化対策の効果的な実施に向けて、改めて各部局に情報共有と意思統一をお願いするものでございます。現状のとおり、県産桃の輸出拡大や日本酒の4年連続金賞受賞数日本一達成などの動きの一方、風評も根強く残り、風化が進んでいる状況にあります。このような中、強化戦略に基づき、先週から今週にかけ、東京・大阪・北海道におけるトップセールス、「ふくしまプライド。」の新しいCM、さらに明日からは、新橋における「日本一のふくしまの酒まつり」など、取組が本格化してきております。このため、「統一感」と「部局連携」をポイントとした取組を進め、今年度の後半以降、さらに進化した取組を展開してまいります。

中程左側をお願いいたします。「統一感のある効果的な情報発信」であります。クリエイティブディレクター監修による新たな観光ポスター、「ふくしまプライド。」のCM、土台となる安全・安心の確保を始め、復興状況、魅力、県民の姿などをトータルで発信してまいります。

下段であります。「部局連携による一体的な取組」であります。ARを活用した観光誘客、全国各地で農産物、新産業、日本酒などをテーマとしたフォーラムなどを展開してまいります。

資料2-2をお願いいたします。御覧のとおり関連事業をカレンダーに落とし込みいたしました。上段の「復興の総括的な動き」を前提としながら、県産品の販路回復、観光・教育旅行の促進、そして、国内外への正確な情報発信について、各部局で情報を共有し、全庁一体となって取組を進めてまいります。

【鈴木副知事】

次に、関連して報告事項2つ目、未来をつくるプロジェクトについて、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料3をお願いいたします。平成26年7月から未来をつくるプロジェクトを開始いたしまして、2年が経過しているところでございます。本プロジェクトは、「風評・風化対策強化戦略」に基づいていただいております。支援に対し、感謝の気持ちを示し、本県復興への思いを伝え、共創の関係を構築するため、全庁一丸となって取組を進めるものであります。

②九都県市関連では、今年の5月に首脳会議が本県で開催され、今後も本県の取組を支援していただくことを宣言していただきました。会議の開催を受けて、埼玉県では、県民に向けた福島県産の桃の斡旋販売、横浜市では、庁舎内での県産乳製品の新規取扱いなど、成果が生まれております。また、今年の3月から5月にかけて、広報誌に一斉に本県情報を掲載していただきました。発行部数は合計で、約1,400万部にも上ります。

この他にも、地元企業や団体への支援の呼びかけなど、様々な御支援を頂いております。デスティネーションキャンペーンが終了いたしました。この流れを継続させ、更に復興・創生に向けた動きを加速化させていくため、本プロジェクトの取組が重要となっております。

下段でございますが、本プロジェクトによる今後の訪問予定は、78か所となっております。各部局におかれましては、継続的な訪問・協議など、共創関係の構築に向けて全庁を挙げた取組をお願いします。

【鈴木副知事】

2つ目の説明について何かありませんか。
知事からお願いします。

【知事】

まず、風評・風化対策の関係であります。キーワードはやはり、「粘り強さ」だと思います。残念ながら、風評払拭・風化対策、何か1回2回ことをやったから解決するかというと、そうではありません。やはり、これからも時間をかけて粘り強く丁寧に取り組んでいくことが重要であります。皆さんもその「粘り強さ」を是非胸に持ちながら仕事に取り組んでいただきたいと思います。

また、未来をつくるプロジェクトのキーワードは、「共創」であります。5月の九都県市の首脳会議、そして、先週は北関東磐越の5県知事会議に出席しました。そこで感じるのは、知事、市長との私自身の絆、それに加えて各自治体の担当者同士も非常に仲良くなって、思いを共有することができます。各部署局長も是非、自分たち自身が、担当者まで含めて「顔の見える関係」、そして、お互いに「意識を共感できる関係」を築いていくことが我々の未来、あるいは、我々の復興を形作っていくことにつながると思います。これからも、私も、両副知事も、また、各部署局長も含めて色々な機会を捉えて、常に工夫をしながら発信をして、応援をしていただける方々との共感の輪を広げながら、全庁を挙げて、県産品の販路回復、あるいは、観光誘客の促進に向けて、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

【鈴木副知事】

最後に3つ目、「ふくしま復興のあゆみ」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料4-1をお願いいたします。「ふくしま復興のあゆみ」が今回で第17版になります。変更があった主な箇所について御説明いたします。

3ページをお願いいたします。避難指示の解除が進みまして、従来から地図の中に避難指示解除の状況も落とし込んでおりましたが、その状況について、右の表にまとめております。また、避難指示の状況で大分、避難指示が解除された地域が広まっている状況が見て取れると思います。7月12日時点で南相馬市小高区が解除されたということで、避難指示が現在、県土の約5パーセントになっておりまして、更に来年の3月に飯舘村が解除されますと、避難指示が県土の約4パーセントになるというような形で進んでおります。右側のトピックスですが、JR常磐線につきましては、避難指示の解除に併せまして、7月12日に小高駅まで開通したところでございます。

4ページを御覧ください。＜復興公営住宅等の整備状況＞の欄に黄色でマークしている帰還者向けの住宅の整備状況、これから避難指示が解除されて、実際に帰還された方も、すぐに元の住宅に住めない場合については、そういう住

宅の整備が進められているということで項目を追加しております。

右側のトピックスですが、「帰還者向けの災害公営住宅の入居開始（飯舘村）」ということで、飯舘村の大谷地団地が完成いたしまして、7月1日から長期宿泊が始まるということで、入居者が決定している状況でございます。具体的には、8月1日から入居が開始されると聞いております。

続きまして、10ページをお願いいたします。食品の関係でございますが、農林水産物のモニタリングにつきまして、平成28年4月1日から6月30日の状況についてお伝えしております。

続きまして、資料4-2をお願いいたします。「“新生ふくしま”2020年に向けて」ということで、各拠点の状況について3月11日の時点から更新をしたものとなっております。イノベーション・コースト構想がかなり進展しているということが1つ、それから中段の2段目ですが、福島県立医科大学の新医療系学部、あるいは、福島大学の農学部の設置目標が決まりましたので、その部分について改定をしております。

【鈴木副知事】

以上で復興推進本部会議を終了いたします。